

AIとIoTにより認知症高齢者問題を多面的に解決する東京アプローチの確立 (大学研究者による事業提案制度)

事業の目的

AIとIoTを用いて認知症の発症・進行プロセスの解明、認知機能障害者への支援策やBPSD防止支援策を導くことで、認知症高齢者自身のQOLの向上、家族・介護者の負担軽減を図る。

事業の概要

- 認知症高齢者の生体・行動のビックデータをAIが分析し、予測・対処法を導き出す「認知症高齢者支援AI/IoTシステム」を大学が設計（令和2年度）。
- 都は大学と連携して、支援システムを活用し、都内の介護施設等を対象とした一定規模のパイロット事業を実施（令和3年度）
- パイロット事業の対象を拡大し、事業を継続・評価。都全域での実施を視野に、システム設計・制度設計を行い、「AIとIoTにより認知症高齢者問題を多面的に解決する東京アプローチ」を確立（令和4年度）

